

「サステナビリティレポート 2025」「データ集」記載内容一部修正のお知らせ

「サステナビリティレポート 2025」「データ集」において、以下修正するとともに、お詫び申し上げます。

※現在公開している「サステナビリティレポート 2025」「データ集」は修正済みです。

■ サステナビリティレポート 2025 の修正について

掲載ページ	該当箇所	修正前	修正後
P1	「報告対象組織」段落内 2～4 行目	環境関連データ(CO ₂ 排出量を除く)の集計範囲は ISO14001 統合認証 117 社と統合認証外の 1 社です。	環境関連データ(GHG 排出量を除く)の集計範囲は ISO14001 統合認証 117 社と統合認証外の 1 社です。
P10	「気候変動」の「めざすもの」	2050 年に製品ライフサイクルを通じた <u>CO₂</u> 排出量ネットゼロの達成	2050 年に製品ライフサイクルを通じた <u>GHG</u> 排出量ネットゼロの達成
P12	「アプローチ」段落内 10～15 行目	特に気候変動においては <u>CO₂</u> 排出量ネットゼロの達成に向けて、製品の小型・軽量化、物流の効率化、生産拠点での省エネルギー活動、再生可能エネルギーの導入、製品使用時の省エネルギー、製品リサイクルなど、さまざまな環境活動で徹底した効率化を図ります。	特に気候変動においては <u>GHG</u> 排出量ネットゼロの達成に向けて、製品の小型・軽量化、物流の効率化、生産拠点での省エネルギー活動、再生可能エネルギーの導入、製品使用時の省エネルギー、製品リサイクルなど、さまざまな環境活動で徹底した効率化を図ります。
	「アプローチ」段落内 20～23 行目	また、長期的には社会全体で起こるイノベーションの取り込みや、SBTi※目標達成をマイルストーンにするなど、あらゆる手段を講じて <u>CO₂</u> 排出量ネットゼロをめざします。	また、長期的には社会全体で起こるイノベーションの取り込みや、SBTi※目標達成をマイルストーンにするなど、あらゆる手段を講じて <u>GHG</u> 排出量ネットゼロをめざします。
P17	「気候変動」見出しの下の記事	製品ライフサイクルのあらゆるステージで <u>CO₂</u> 排出量削減に努めています。	製品ライフサイクルのあらゆるステージで <u>GHG</u> 排出量削減に努めています。
	「2050 年にめざす姿」見出しの下の記事	製品ライフサイクル(スコープ 1～3)を通じた <u>CO₂</u> 排出量を 2050 年にネットゼロとすることをめざします。	製品ライフサイクル(スコープ 1～3)を通じた <u>GHG</u> 排出量を 2050 年にネットゼロとすることをめざします。
	「キヤノンの GHG 削減の取り組み(～2030 年)」段落内 6～9 行目	2050 年までにネットゼロとすることをめざし、2030 年までにスコープ 1、2 の GHG 排出量を 2022 年比で 42%削減、スコープ 3(カテゴリー1、11)の GHG 排出量を 2022 年比で 25%削減を目標としています。	2050 年までに <u>GHG</u> 排出量をネットゼロとすることをめざし、2030 年までにスコープ 1、2 の GHG 排出量を 2022 年比で 42%削減、スコープ 3(カテゴリー1、11)の GHG 排出量を 2022 年比で 25%削減を目標としています。
P23	「指標と目標」段落内 1～2 行目	キヤノンは、製品ライフサイクルを通じた <u>CO₂</u> 排出量を 2050 年にネットゼロとすることをめざし	キヤノンは、製品ライフサイクルを通じた <u>GHG</u> 排出量を 2050 年にネットゼロとすることをめざし

		ています。	ています。
P25	「環境負荷の全体像」段落内 1～2 行目	2024 年の製品ライフサイクル全体(スコープ 1～3)の CO ₂ 排出量は、約 810 万 t-CO ₂ e となりました。	2024 年の製品ライフサイクル全体(スコープ 1～3)の GHG 排出量は、約 810 万 t-CO ₂ e となりました。
P27	「カーボンフットプリント(CFP)の算定・開示」段落内 15～19 行目	また、経済産業省が推進する「CFP を活用したカーボン・オフセット制度」を活用し、お客さまのご要望に応じてオフィス向け複合機と一部のプロダクションプリンターの製品ライフサイクル全体で排出する CO ₂ について、カーボン・オフセット※ ² を行うしくみをご用意しています。	また、経済産業省が推進する「CFP を活用したカーボン・オフセット制度」を活用し、お客さまのご要望に応じてオフィス向け複合機と一部のプロダクションプリンターの製品ライフサイクル全体で排出する GHG について、カーボン・オフセット※ ² を行うしくみをご用意しています。
P29	「製品使用時における削減効果」段落内 4～5 行目	これにより、3,169 千 t-CO ₂ の削減効果が期待されます。	これにより、3,169 千 t-CO ₂ e の削減効果が期待されます。
	「オフィス機器の省エネルギー量と CO ₂ 削減効果(累計)」グラフ	(千 t-CO ₂)	(千 t-CO ₂ e)
P31	「資源循環がもたらす価値」段落内 7～12 行目	キヤノンエコテクノパーク(キヤノンエコロジーインダストリーが運営)では、拠点の運営にともない、2024 年にはスコープ 1、2 にあたる CO ₂ を約 2,700t 排出しましたが、上述の取り組みにより、約 14,100t の CO ₂ 削減効果を生みだした、と認識しています。	キヤノンエコテクノパーク(キヤノンエコロジーインダストリーが運営)では、拠点の運営にともない、2024 年にはスコープ 1、2 にあたる GHG を約 2,700t 排出しましたが、上述の取り組みにより、約 14,100t の GHG 削減効果を生みだした、と認識しています。
	「拠点運営にともなう CO ₂ 排出」グラフ	拠点運営にともなう CO ₂ 排出	拠点運営にともなう GHG 排出
		(t-CO ₂)	(t-CO ₂ e)
	「資源循環による CO ₂ 削減効果」	資源循環による CO ₂ 削減効果	資源循環による GHG 削減効果
		(t-CO ₂)	(t-CO ₂ e)

■ データ集の修正について

掲載ページ	該当箇所	修正前	修正後
P1	CO ₂ 関連データ	CO ₂ 関連データ	GHG 関連データ
		(t-CO ₂)	(t-CO ₂ e)
P3	環境保全効果	省エネルギー量(t-CO ₂)	省エネルギー量(t-CO ₂ e)
		製品の省エネルギー量(千 t-CO ₂)	製品の省エネルギー量(千 t-CO ₂ e)

以上